

## 世田谷村日記

石山修武

一月七日

○五〇一CEMA計画○五〇二B邸○五〇三〇邸○五〇四S邸  
打合わせ。主にスケジュール。○五〇七森の学校○五〇八新木場  
トモコーポレーションの段取り。

十四時三沢千代治氏来室。社長若松氏と打合わせ。カナダの  
中国人入室希望者来室。先端電気工学から建築に移るといのは  
アナクロナ様な気もするが、そうしたいと言っただからそれも良  
いのだろう。研究室も半分位が外国人になると理想的だろう。十  
七時過アベルと○五一一フィンランドの打合わせ。二〇時過宗柳  
夕食。

明日は再び山口勝弘氏訪問の予定。ヴィトリノの件を詳細に  
うかがうつもりである。モスクワの件はどうやら足掛りのアイデ  
アが生まれた。

一月八日 土曜日

薄い陽光が差し込む寒い朝が続く。今日は藤沢の高橋さん宅を  
訪ねるが、クライアント一家が対面する困難さをどのように引受  
けられるのかに対応しなければならぬ。○五一一三T邸で試みた  
屋上テラスの試みを踏襲するのが自然だろうな。例えば屋上に小  
動物の小屋を作るような、佐藤健の酔庵の完成型のプロジェクト  
も参照してA邸の素材の使い方をそれに加えてみるのも一興だろ  
う。ご主人の五体をフルに使ってもらおう、例えば、よじ登るよう  
に手足全部を使い切ってもらおう部分を作るような事を考えてみよ

う。ヘレンケラー塔の屋上に登る階段も参照したい。

十三時高橋宅。十五時迄。十七時多摩プラーザに山口勝弘さん  
を訪ねる。ヴィトリノの話しを再びうかがう。刺激的であった。  
自由ヶ丘で食事後世田谷村に戻る。

一月九日 日曜日

昨日会った高橋さん、山口勝弘さん、共に身体的には障害があ  
る。しかし障害を持つ人はなんとモリアルな存在感がある。何故  
か。人間は実に皆誰もが何かの障害を持っている。良く出来た機  
械のように全ての部分が正常に働いている人間は存在していない。  
日々死に向かって歩みをすすめている。死は完全な静止、停止の  
状態である。生命はその状態に向かう虚無的な運動だ。その運動  
は人間に内在する電子エネルギーの燃焼変化を言う。変化流動は  
完全な静止に対して非対称、つまり極論すれば障害故障の形をと  
る。生命とは故障の連続の網渡り状態でもあろうか。それ故に眼  
に視え易い障害に対面したときに感得する圧倒的な存在感とは自  
分自身に内在する微々たる障害の群が鏡に映し出されているのを  
直観するからなのだ。

大阪のM氏からの長文の便りを読む。TTT計画エスキース開  
始。

一月十日 休日

終日エスキースと読書。エスキーススケッチで使う細胞と字を  
書く時に働いてもらう細胞はどうやら本当に別のところに棲みつ  
いているようだ。一方を使うと、一方が使えなくなる。